

令和6（2024）年度柏崎市水害対応総合防災訓練 実施結果

柏崎市危機管理部防災・原子力課

1 目的

近年全国的に多発する豪雨災害に備え、洪水及び土砂災害への対応を想定した実践的な防災活動及び地域住民参加による訓練を実施して、水防意識の醸成を図り、地域防災力の向上を目指す。また、ハザードマップの正しい理解や災害から自分の身を守るための適時適切な住民避難体制を整備することを目的とする。

2 実施日時

令和6（2024）年6月9日（日曜日） 午前8時から午前11時まで

3 主催等

(1) 主催

柏崎市防災会議

(2) 協力団体（順不同）：

陸上自衛隊第2普通科連隊、東日本高速道路株式会社新潟支社、株式会社カシックス
社会福祉法人沘山会 特別養護老人ホーム たんねの里、柏崎ファミリードッグ、
新潟県動物愛護センター、公益社団法人新潟県獣医師会

4 訓練想定

梅雨前線の影響により、市の西部地区に記録的短時間大雨情報が発表され、降り始めからの総雨量が125mm、1時間最大雨量85mmに達した。

人家および施設への切迫した浸水および土砂災害への懸念から、市は午前8時に災害対策本部を設置して、鯨波、米山及び上米山地区に対して警戒レベル4避難指示（土砂、洪水）を発令し、併せて自衛隊に住民避難支援の要請を行う。

5 訓練項目

- (1) 避難指示等の情報伝達訓練
- (2) 避難所開設訓練
- (3) 住民避難訓練
- (4) 要配慮者利用施設における施設利用者避難行動訓練
- (5) 消防団による水防活動訓練
- (6) 情報収集・伝達訓練

6 訓練スケジュール

【8時00分】第2回災害対策本部（本部員招集）

(事項)

市長指示

- ・現地対策本部（第三中学校）の設置（柴野副市長を現地本部長とする。）
- ・避難指示（土砂、洪水）発令
- ・自衛隊派遣要請
- ・臨時開設避難所の開設指示

地区	洪水河川	洪水	土砂	町内会	避難先候補地1（先行避難）	避難先候補地2（対応が遅れた者）
鯨波		なし	あり	東の輪町	自宅	
	前川	あり	あり	鯨波	鯨波コミセンは使用不可（浸水想定） 代替： 前川起点に 西側：特養くじらなみ、第三中学校 東側：神明宮	
		あり	あり	川内	第三中学校	長昌寺→南中学校（自衛隊救助による移送）
上米山		なし	あり	小杉	自宅	
	谷根川	あり	あり	谷根	上米山コミセンは使用不可（浸水想定） 代替：南中学校	南中学校（自衛隊救助による移送）
米山			あり	青海川	米山小学校	岩野ポンプ場 →米山小学校（自衛隊救助による移送）
		なし	あり	笠島	笠島ふれあいセンター又は米山SA（下り）	
		なし	なし	上輪新田	自宅	
		なし	あり	上輪	上輪会館	
	オガチ川	あり	あり	米山町	米山小学校	
		あり	なし	高畔	自宅	
あり		あり	大平	自宅		

- ・エリア限定無線放送（避難指示発令／臨時開設避難所の周知）

【8時45分】第3回災害対策本部

(事項)

上下水道局長

- ・谷根ダム及び川内ダムについて、越流水の大幅な増加が予想されるため、ダムのサイレンを吹鳴する。
- ・なお、六拵トンネルは現時点では通行可能

市長指示

- ・現地対策本部（三中）の自衛隊のリエゾンに対し、青海川地区（岩野ポンプ場）及び谷根地区（上米山コミセン）、川内地区（長昌寺）への住民避難支援を要請

【9時00分～】視察（※視察場所は、米山小学校、第三中学校及びたんねの里）

- ・住民避難訓練（マイナンバーカードによる受付）※米山小学校
- ・福祉避難室設置 ※第三中学校
- ・ペット同行避難受け入れ訓練 ※第三中学校
- ・高齢者施設避難訓練 ※たんねの里

7 訓練概要

(1) 避難指示等の情報伝達訓練

防災行政無線、緊急速報メール（エリアメール）、Yahoo!防災速報、各種 SNS（X、フェイスブック）で避難情報（避難指示）、訓練情報を伝達した。しかし、緊急速報メール（エリアメール）において、一部キャリアで配信されない事象が発生した。



(2) 避難所開設訓練

本訓練では、訓練地域の各コミセンが浸水することから、より安全でかつ優先開設避難所に指定する小中学校（第三中学校、米山小学校、南中学校）への避難を想定し、開設訓練を実施した。

令和6年能登半島地震を受けて速やかに優先開設避難所が開設できるよう、開錠に必要な鍵を当該避難所にあらかじめ設置したキーボックスに収納している。今回はその鍵を用いて市の避難所担当職員が開錠し、開設を実施した。



また、第三中学校では、以下の訓練も併せて実施した。

○ペット同行避難

柏崎ファミリードックの皆さんから協力いただき、大型犬と中型犬合わせて5匹の避難所でのペット受付からペットスペースの設置までの一連動作を確認した。



○福祉避難室の設置

障害を持つ3組のご家族の皆さんから協力いただき、避難所での受付から避難所内に設置した福祉避難室への移動の一連動作を確認した。また、各組それぞれ分けられるようパーティションを組み立て設置や簡易トイレの組み立て設置も行った。



福祉避難室
(第三中学校)



簡易トイレ
(第三中学校)

(3) 住民避難訓練

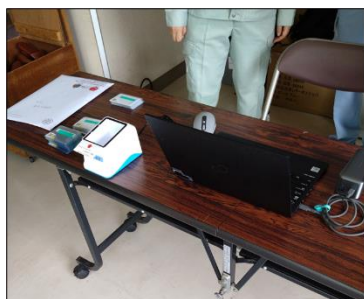
住民参加者：573人（米山：324人、上米山：121人、鯨波：128人）

訓練地域の自主防災会が事前に計画した避難訓練どおり実施した。

洪水浸水想定区域にかかる住民については立ち退き避難とし、当該区域にかからない住民については、自宅待機（2階への垂直避難も含む。）を各々必要な行動を町内及びコミセンの自主防災会が主体となり、住民避難に取り組んだ。

○マイナンバーを用いた受付

米山小学校では、模擬のマイナンバーカード（二次元コード）を活用した避難所受付を行った。現状の避難者名簿への記入に比べ、マイナンバーを活用することで、1人当たりの受付所要時間を3分34秒短縮することを検証できた。



模擬マイナンバーカードによる避難所受付（米山小学校）

○笠島住民の米山サービスエリア（下り）への徒歩避難

笠島町内会では、笠島住民46人が笠島ふれあいセンターから米山サービスエリア（下り）への徒歩避難を実施した。なお、所要時間は、約20分ほどであった。



笠島ふれあいセンターから国道8号線を通り、米山サービスエリア（下り）へ移動（笠島町内会）

○自衛隊救助による移送

青海川、谷根、川内の町内に取り残された住民がいると想定し、自衛隊の高機動車による救助及び避難所への移送を行った。青海川の住民5名は、岩野ポンプ場（青海川地内）から米山小学校へ、谷根の住民2名及び川内の住民3名は、それぞれ上米山コミセン及び長昌寺（川内）から南中学校へ避難した。



青海川住民が岩野ポンプ場(青海川)から高機動車で米山小学校へ



上米山／川内住民が高機動車で南中学校へ避難

(4) 要配慮者利用施設における施設利用者避難行動訓練

特別養護老人ホーム たんねの里において、河川からの洪水に備え、施設利用者を1階から2階に移動させる垂直避難を実施した。

(5) 消防団による水防活動訓練

河川の増水に伴う警戒活動や広報活動を実施したほか、自主防災会と連携して避難所までの住民に対する避難誘導を行った。



鯨波地区で警戒活動・広報活動



米山小学校で避難誘導

(6) 情報収集・伝達訓練

各町内の自主防災会からコミセンの自主防災会への避難状況及び被災状況について報告を行った。また、コミセンの自主防災会においては、収集した情報を集約した後、現状を市へ報告し、情報共有を図った。

8 訓練地域からの意見・成果等

- ・町民への事前周知（参加のお願い、訓練内容、訓練の流れ等を各戸に配布）により避難行動がスムーズであった。
- ・全町内会員名簿を避難所の黒板へ班別に列記し、安否確認を行った。
- ・避難完了報告として、玄関前に黄色い旗を掲揚することになっている。今回の訓練では、ほぼ全世帯から掲揚していただいた。
- ・役員の連絡手段について LINE グループを作成して一斉送信おこなった。未登録者においては、SMS で対応）。電話による音声通話よりも有効な手段であった。
- ・水害発生時の避難先も町内で再確認できた。
- ・消防団と自主防災会が連携して避難誘導ができた。
- ・要配慮者のご自宅に訪問し、避難の声掛けを実施した。要配慮者の状況や様子を知ることができ、要配慮者避難を考える良い機会となった。
- ・コミュニティ区域を超えた避難においては、避難所までが遠すぎる。
- ・米山コミュニティ地区においては、地区内の優先開設避難所（米山小学校）まで遠すぎる。
- ・自然災害の災害種別によって避難先が異なるため、すべての災害種別に対応できる避難先が必要ではないか。
- ・体の不自由な方については、車避難も必要ではないか（訓練内でもそのような方が車で避難されている方がいたため）。
- ・市の避難者受付と自主防災会で行う避難者受付があいまいとなり、避難者確認が遅れた。
- ・米山小学校に避難した際に、マイナンバーカードの受付対象の地域ではなかったが、マイナンバーカードの受付訓練を行うようになっていた。
- ・住民の安否確認について、確認方法及び確認に用いる書式を教えてもらいたい。
- ・発災状況によりコミセンが各地域の情報収集や市への報告が行えないことも想定される。その場合の情報伝達の在り方等、コミセンと市で共有する必要がある。
- ・ダムサイレンの吹鳴があったが、あまりサイレン音は聞こえなかった。
- ・土砂災害警戒区域に指定されているが、土砂災害への対策工事が行われた区域については災害指定の除外はできないか。
- ・訓練後に防災講和があるとよかった。
- ・町内会（自主防災会）の役員や班長は交代があるため、発災時の連絡網や対応マニュアルを整備する必要がある。

9 訓練で見た課題と対策

(1) 避難指示等の情報伝達訓練

【課題】 緊急速報メール（エリアメール）において、一部のキャリアで配信に必要となるアクセス情報に誤りがあったことにより配信が行われなかったことから、緊急速報メールの確実な配信を行う。

【対策】 正しいアクセス情報にシステムを修正するとともに、通常運用による方法で配信できなかった場合は、各キャリアのウェブサイトへ直接ログインし各メール配信を行う等、別の方法から配信を行う。

(2) 避難所開設訓練（ペット及び要配慮者施設利用者の受入れ並びにキーボックス活用）

○ペット同行避難

【課題】 避難者受付とペットの受付の時間短縮

【対策】 ペットの受付においては、避難所保管用とケージ貼付用とで同じ内容を書いても良かったことが時間を要した原因である。今後、受付方法について様式を含め、引き続き検討していく。

○福祉避難室の設置

【課題】 今回の訓練会場であった第三中学校の体育館にはスロープの配備がなかったことから、優先開設避難所の車いす利用者への配慮（スロープ設置）が必要

【対策】 避難所入口のスロープについて設置可否を確認していきたい。

【課題】 避難所受付で配慮が必要かどうか分かるため、段ボールパーティションのほか、すぐに仕切れる用品が必要

【対策】 容易に要配慮者へ対応するための設えが整えられるよう、ワンタッチ式テント等の物品選定及び購入を検討する。

(3) 住民避難訓練

○避難所

【課題】 中小河川の洪水ハザードマップを作成する上で、従来開設できた避難所が利用できない場合の避難所の取扱い。

【対策】 コミュニティ地区に1つ以上の避難所が設定できることが理想であるが、洪水においては少なからずリードタイムもあることから地区内で避難所が設定できない場合は、地区外への避難場所・避難所を防災ガイドブック等で示す必要がある。

○マイナンバー受付

【課題】 模擬のマイナンバーカードではあったものの、本市では初めてのマイナンバーカードを使った受付を検証した。引き続き、様々な検証を実施していく必要がある。

【対策】 実用可能なレベルになるまで、訓練等をとおして試験を実施し改善を図っていく。

(4) その他

○ダム警報サイレン

【課題】 ダム警報サイレンの音達状況を確認し、音が届かないエリアへの対応

【対策】 防災・原子力課が設置する屋外スピーカー及び市民に配布する緊急告知ラジオと連携しながら、ダム警報サイレンの内容周知を行う。